

令和6年度厚木市議会友好都市交流訪問団（網走市）報告書
【概要版】

1 訪問期間 令和7年2月7日（金）～2月9日（日）

2 訪問先 北海道網走市

3 訪問団 7人

団 長 遠藤 浩一 議長

団 員 石井 芳隆 議員

瀧口 慎太郎 議員

堀江 克己 議員

白川 美作江 議員

小嶋 正博 議員

事務局 高橋 幸雄 議会事務局長

4 目 的

国内友好都市である北海道網走市に、市議会で構成する訪問団を派遣し、議会関係者や友好交流団体等との友好親善を図る。

5 訪問日程

2月7日（金）

8時40分 厚木市役所 出発

12時25分 羽田空港（発）JAL567 便

14時15分 女満別空港（着）

15時00分 網走市役所新庁舎（議場）見学

16時10分 網走市表敬訪問

18時00分 議会・市長部局交流都市合同歓迎会
（厚木市、網走市、糸満市、天童市）

2月8日（土）

9時00分 博物館網走監獄見学

11時00分 オホーツク流水まつり開会式参加

11時50分 オホーツク流水館見学

12時40分 モヨロ貝塚館見学

14時10分 オホーツク流水館見学

17時00分 オホーツク屋台村見学

18時00分 4市議会交流会
（厚木市、網走市、糸満市、天童市）

※流氷砕氷船おーろら乗船予定であったが波浪、高波により欠航したため一部予定変更。

2月9日（日）

9時35分 女満別空港（発）JAL562 便
11時25分 羽田空港（着）
13時30分 厚木市役所 到着

6 網走市の概要

網走市は、北海道の東部、オホーツク海沿岸に位置し、また、女満別空港から約 20 kmと立地条件も良く、農業、漁業、観光の街として発展している。特に漁業は、オホーツク海には豊かな「海の幸」があり、タラ、ホタテ、サケ・マスをはじめとする様々な魚種が水揚げされており、オホーツク海沿岸では水揚げ量も取扱金額もトップクラスを誇っている。また、冬の風物詩として有名な「流氷観光船」や「流氷まつり」を始め、ワカサギ釣りなども盛んで、網走市を訪れる観光客は年間160万人を数えている。

人口は、31,583人、世帯数17,340世帯（令和7年1月末現在）、面積471.00km²。

7 視察等概要

2月7日（金）第1日目

（1）網走市役所新庁舎見学

令和7年2月25日オープン予定の新庁舎の見学をさせていただいた。市民に自然にやさしいスマート庁舎をコンセプトに建設された。

まだ、事務室等引っ越しはこれからの状態ではありましたが、議場を始め議会関係室や市役所窓口執務室、市民ホール等を見せていただいた。地元産のカラマツを多く使用、従来の建物と比べて一次エネルギー消費量を50%以上削減するZEB Readyを達成するなど環境に優しい庁舎とされている。

（2）網走市への表敬訪問

網走市役所で表敬訪問を実施した。網走市の水谷市長、後藤副市長、網走市議会の平賀議長、立崎副議長、秋葉総務企画部長、岩尾議会事務局長、厚木市では市議会訪問団以外に、山口貴裕市長、吉岡秘書課長が出席した。

水谷市長から、歓迎のごあいさつをいただいた後、今年は暖冬により流氷が来ていないことから、網走の食や文化の良いところがたくさんあるので、流氷まつりと併せ楽しんでほしいとお話もあり、流氷等の話題などで盛り上がった。

(2) 議会・市長部局 4市合同交流会

網走市及び網走市議会の水谷市長、平賀議長、立崎副議長ほか計7名、厚木市の友好都市である糸満市の當銘市長、新垣副議長ほか計4名、網走市の観光物産交流都市である天童市の湯村総務部長、武田副長ほか計4名、厚木市では、山口市長、厚木市議会議員団ほか計9名の合計24人の出席により4市合同交流会が開催された。各市のまちづくりや地域振興などについて、幅広く活発な意見交換を行うことができた。

2月8日（土）第2日目

(1) 博物館網走監獄見学

敷地内に「旧網走監獄庁舎」など8棟の重要文化財を有しており、建物の見学を通し、当時の受刑者の服役状況や北海道開拓時の刑務所の果たした役割が確認できた。また、北海道の開拓に、囚人の労働力が貢献してきた面があることについても確認ができた。

(2) あばしりオホーツク流氷まつり 開会式参加

網走商港埠頭特設会場にて2月8日から9日までの2日間開催される「第60回あばしりオホーツク流氷まつり」の開会式に来賓として参加した。

当日は、雪降る中、風も強く吹雪に近い天候ではあったが、観光客や家族連れの方を中心に賑わいを見せていた。

開会式のステージ上では主催者で小沢実行委員長の挨拶の後、来賓代表である市長からの挨拶、友好都市である厚木市、糸満市、物産交流都市である天童市からの来賓の紹介が行われた。

開会式終了後、網走市民の方々の手作りによる冰雪像や物産展等のまつり会場を視察した。会場内は氷の滑り台や友好都市物産品プレゼントが行われるほか、イベントの網走ちゃんぽん、網走湖産のシジミ汁など網走ならではのグルメが盛りだくさんであった。

(3) モヨロ貝塚館見学

モヨロ貝塚館は、今から約1300年前、忽然と現れ忽然と消えた北方の民「オホーツク人」の謎を解明する施設。

モヨロ貝塚の発見から100年経ち、新たに解明された知られざる「オホーツク文化」を「住居」「墓」「貝塚」のテーマに沿って展示・紹介、そしてモヨロ人の暮らしを体感することができる。実際に発掘した墓をそのまま保存展示する墓域展示室は見ごたえがあった。

貝塚から図り知れるモヨロの民たちの豊かな暮らしぶりを感じることができた。

(4) 流氷硝子館見学

「流氷をなくさないために！」を最大のミッションとして環境問題に取り組む流氷硝子館。廃蛍光灯リサイクルガラスカレット「エコピリカ」で製作したグラスに、スリガラス状の模様を絵付けする体験できる施設。ガラス細工を販売も行っており、全ての流氷硝子製品に廃蛍光灯リサイクルガラス原料「エコピリカ」を使用されている。

(5) オホーツク流氷館見学

流氷の天使と呼ばれるクリオネなどの飼育展示がされていた。流氷体感テラスでは、マイナス 15℃の室内で本物の流氷を展示することができた。流氷幻想シアターでは、総インチ数 400 インチスクリーンの五面シアターで流氷の映像により、流氷の訪れた網走の1日のうつろいを体験することができた。

全ての施設の見学においては、インバウンドの影響もあり国内だけではなく海外からの観光客も数多く見られた。網走市の観光資源としてもたいへんな強みであることが確認できた。

(5) オホーツク網走屋台村見学

流氷砕氷船おーろら乗船予定であったが波浪、高波により欠航したことから、4市議会交流夕食会会場付近で行われていたオホーツク屋台村を見学してみた。「第23回オホーツク屋台村」(実行委主催)があばしりオホーツク流氷まつりに合わせて2日間、網走の中心市街地で開かれている。中央商店街「アプト4」に地元の味覚を楽しむ屋台村が軒を連ね、市民や観光客が、網走のあったかい味覚や人柄を満喫する。路上に炭火の焼き用の七輪を設置し、焼き肉や海鮮焼きを楽しむほか、地場産品を提供する約10店の屋台が軒を連ねていた。

氷でつくった「アイス・カウンター」で出されるカクテルは屋台村の見どころでもある。実行委は社交飲食業組合、網走ぐるめ活性化協議会、中央商店街振興組合、日専連網走で構成されており、市と網走商工会議所、観光協会が後援している。

(6) 4市議会交流夕食会

平賀議長、立崎副議長のほか、網走市議会議員会の会長である山田議員、副会長の松浦議員も出席された4市議会交流夕食会では、両市議会としては、今後も引き続き協力関係を維持し、教育やスポーツ交流など行政や市民とともに多くの行事等で親交・親善を深め、友好関係を図っていくことで相互理解を得ることができた。また、友好都市である糸満市議会や天童市議会の皆様との親睦も一層深めることができ、今後の交流にも期待ができる。

7 まとめ

今回の訪問では、冬の大イベントである「第 60 回あばしりオホーツク流氷まつり開会式」や各種交流会など、さまざまな場面で網走市議会と交流の場を持つことができました。

両市議会の対話の中で、今後も経済や産業、文化に留まらず、教育やスポーツ交流など、広い階層や多くの行事等で行政や市民とともに、親交・親善を深め、互いに利益となるような友好関係を進めていくことが確認されました。

流氷を見ることはできず、流氷砕氷船おーろら乗船も天候により乗船はできませんでしたが、網走市の食や文化など堪能できたものと思います。また、観光面については、インバウンドの影響もあり国外からの観光客も非常に多く、観光資源、観光客に対するおもてなし等参考になるものも多かった。

更には友好都市である糸満市、網走市の観光物産交流都市である天童市とも長時間にわたり親しく交流の場がもて、各種の意見交換ができたことも、本市議会として大変有意義な訪問となりました。